

## 「自宅や施設で最期」地域差

### 「看取り率」最大13倍 厚労省研究班

#### ◎自宅や介護施設で亡くなる人の割合

人口20万人以上

1	横須賀市(神奈川)	35.4%
2	加古川市(兵庫)	32.4%
3	浜松市	30.9%
...	...	...
3	鹿児島市	13.3%
2	北九州市	12.3%
1	豊田市(愛知)	11.6%

人口3万人以上20万人未満

1	豊岡市(兵庫)	43.5%
2	米原市(滋賀)	41.8%
3	葉山町(神奈川)	40.9%
...	...	...
3	久慈市(岩手)	7.4%
2	篠栗町(福岡)	7.3%
1	岡垣町(福岡)	3.3%

病院ではなく自宅や老人ホームなど生活の場で亡くなる人の割合に、自治体間で大きな差があることが厚生労働省研究班の調査でわかった。2014年の全死亡者から事故や自殺などを除き、「看取り率」として算出したもので、人口20万人以上は約3倍、3万人以上20万人未満で約13倍の開きがあった。背景に在宅医療・介護体制の違いがあるともみられ、「最期は自宅で」の望みがかなうかどうかは、住む場所によって決まる実態がうかがえる。〈解説2面〉

人口動態調査(14年)の全死亡例を基に、自治体ごとに病院や自宅など、どこで亡くなったのかを分析。孤立死などを除外できな

ったが、より看取りの実態に近い数値だという。データがしっかりしている全国1504市区町村の集計では、病院の看取り率が78・6%、自宅や老人ホームなどでの「地域看取り率」は21・4%だった。12年度の内閣府調査で、最期を迎える場所に自宅や老人ホームなどを希望した人が6割を超えているのとは比べると、希望と現実の違いがある。

市区町村別の地域看取り率をみると、人口20万人以上では神奈川県横須賀市が35・4%で最も高く、最も低い愛知県豊田市は11・6%だった。3万人以上20万人未満の最高は兵庫県豊岡市の43・5%、最低は福岡県岡垣町の3・3%。

横須賀市に316ある診療所が14年9月に行った訪問診療は4336件。これに対し、人口規模がほぼ同じ豊田市で、218の診療所が同時期に行った訪問診療は673件にとどまっている。研究班は看取り率の差の背景に、「往診を行う診療所の比率」など、在宅医療体制の違いがあるとみている。研究班メンバーで医療法人「アスミス」理事長の太田秀樹医師は、「自宅などで生活を続けた先に、穏やかな死を迎えられるよう、自治体は取り組んでほしい」と話している。

## 病院・介護と連携強化を

### 看取り地域差 1面

終末期に延命治療を望まない人が増え、自宅など住み慣れた場所での最期まで過ごしたいと願う人は多い。厚生労働省は病院の病床数を削減する方針で、2025年までに、自宅や介護施設で長期療養する高齢者らが約30万人増えるとの見通しもあり、安心して死を迎えられる体制作りは急務だ。

今回の厚労省研究班の調査では、病院で9割以上が亡くなる自治体も、全体の7%あった。

自宅や老人ホームなどで看取(みとり)を行うには、苦痛を軽減する緩和ケアなどの医療処置ができることが前提だが、全国に約1万4000か所ある24時間態勢の「在宅療養支援診療所」には、実際には往診に手が回らず、実績に乏しい所もある。自宅での看取りを担う開業医の高齢化も進む。

診療所だけに頼らず、地域の病院、介護事業所などとの連携を強化することが必要だ。先進地域に学んだ各自治体の取り組みが求められている。

(社会保障部 飯田祐子)